

# 図書だより

令和6年度 第3号 兵庫県立神崎高等学校 図書委員会

## 図書委員からのおすすめ



1年 川口大雅

『打ち上げ花火、下から見るか？横から見るか？』 岩井俊二 著  
図書だより第2号の時は、異世界ものをおすすめしましたが、今回はラブコメをおすすめさせていただきます。タイトルでどんなお話か気になった方は、ぜひお昼休みに図書室を訪れてみてください！

2年 岡本祐輔

『タガヤセ!日本』 白石優生 著

農水省の白石さんが農業の魅力について書かれた本です。昔とは変わっていく農家の仕事、日本の農業が抱える課題、農林水産省の仕事や食料の豆知識などが書かれており、これ1冊読むだけで、農業を理解したような気分になります。ぜひ読んでください。



2年 小嶋優斗

『資本論』 カール・マルクス、フリードリヒ・エンゲルス 著

1867年からドイツで書かれた経済学書です。内容としては、資本主義経済を分析して資本主義社会の問題点を書いています。この本は歴史上、聖書の次に多くの人に読まれており、結果として19世紀に最も講題に領土をもつ社会主義国家が成立することになったとされています。そして現在、日本国内で読んでいる人々が増えており、今もなお影響力がある本でもあります。今の世界でも重なる部分があるので、とてもおもしろい本です。



3年 三輪大登

『永遠の0』 百田尚樹 著

戦時中にあった飛行機に乗って体当たり攻撃をする「特攻」で亡くなった祖父の宮部久蔵について調べていく、という物語です。「海軍一の臆病者」と言われていた宮部について当時、彼と関わった人たちに話を聞いていくうちに、海軍一の臆病者と呼ばれた彼がなぜ、特攻で死んでいったのか、その理由と真相に迫っていく話です。個人的にですが、本だけでなく、映画もオススメなので、ぜひ、見てほしいと思います。

3年 藤本裕也

『霊媒探偵城塚翡翠メディウム』 相沢沙呼 著

霊媒師の城塚翡翠と作家の香月史郎が数々の難事件に遭遇しながら、連続殺人事件を追う物語です。霊媒師である城塚翡翠の力を使い、事件を解決していきます。連続殺人鬼の驚くべき正体と目的とは、そして城塚翡翠の霊媒の力の秘密とは、おもしろいので読んでみてください。



1年 播戸芹

『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。』 青柳碧人 著

誰もが知っているような童話がミステリーになった本です。この本では「シンデレラ」「ヘンゼルとグレーテル」「眠り姫」「マッチ売りの少女」の童話が使われており、クッキーとワインを持って旅に出た赤ずきんが、その途中でいろいろな事件に遭遇する物語です。短編ミステリーになっているので、簡単に読むことができるし、読んでいくうちに、こんなミステリーがあったのか、と感じることができる本になっています。

1年 堀岡蒼空

『かがみの孤城』 辻村深月 著

この本は、主人公が学校でいじめられていて、家にひきこもってしまいます。ある時、鏡が光り、鏡の中へ入ると異世界に入ってしまう、そこには自分と同じ年くらいの子たちがおり、その子たちと一緒に鍵を探す物語です。まだたくさんのお話があるので、ぜひ読んでみてください。

